

# GK情報レポート

【2026年発行】

vol. 78

新年号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

〒252-0212

神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail [eigyo@gondametal.co.jp](mailto:eigyo@gondametal.co.jp)

<https://gondametal.jp>

## Contents

1. 新年のご挨拶
2. 真鍮の廃材リサイクルと環境対応
3. メタルレビュー 鉛
4. 新入社員紹介
5. 相場情報

皆様でご覧下さい。

回 覧 印										

※バックナンバー（Vol.1～77）を用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

## 1. 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

私事ではございますがようやく後厄が終わり、晴れやかな気持ちで新年を迎えることが出来ました。

その一方で、国際情勢は年明けから波乱の様相を呈しています。

アメリカはドンロー主義を掲げ、ますます自国主義的な傾向を強めています。日本を始め各国は関税を盾に賛同的な対応を迫られ、先行きの見通しは一段と不透明になっています。

他方では株価が高騰を見せ、その恩恵によって生み出された資金が鉱物投資にも回り、各種金属は過去に類を見ない値上がり状況にあります。銅建値も2,000円/kgを大きく上回り、実需とかけ離れた価格になってしまっているように感じられます。

バブルが弾けるように急激な下落を心配する声も多々耳にいたしますが、今年の銅地金の需給バランスが供給不足と予測されていることから、しばらくは現在の水準かそれ以上で推移することが見込まれます。

このような難しい状況ではございますが、当社は本年も一丸となって頑張っております。今後ともご愛顧いただけますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

権田 有紀子



## 2. 真鍮の廃材リサイクルと環境対応

真鍮は「銅」を主成分としています。銅はリサイクル性が非常に高い金属であり、再溶解しても品質がほとんど劣化しません。鉄やアルミニウムもリサイクル可能ですが、銅は特に「無限にリサイクルできる資源」といわれるほど循環利用に向いています。

当社の真鍮製品は自社で溶解鑄造したビレットを使用しており、その原料の多くはスクラップからなります。

真鍮の廃材をリサイクルすることは、資源の節約と環境保全の両面でメリットがあるのです。

### リサイクルのメリットと課題

真鍮廃材のリサイクルは、多くのメリットをもたらします。

1. 資源節約 銅鉱石やスズ鉱石の採掘量を減らせる。
2. エネルギー削減 新規精錬に比べて大幅にエネルギーを節約可能。
3. CO<sub>2</sub>削減 製造時の温室効果ガス排出を抑制できる。
4. 循環型社会への貢献 持続可能な資源利用のモデルケースとなす。

これらのメリットは企業活動だけでなく、社会全体の環境負荷低減に寄与します。

一方でいくつかの課題も存在します。

1. 異種金属の混入 鉄やアルミが混ざると品質が低下する。
2. 不純物の蓄積 再生を繰り返すうちに鉛や不純物が増える。
3. 小規模廃材の回収 家庭や小工場から出る少量廃材の回収はコストがかかる。
4. 地金の相場リスク 銅やスズの国際相場によってリサイクルの採算性が左右される。

これらを解決するためには、効率的な分別回収システムの構築や、不純物を低減する精製技術の向上が不可欠です。

今後ますます求められるのは、効率的で高品質なリサイクル技術の確立と、社会全体での環境意識の向上です。真鍮のリサイクルは、単なる資源循環にとどまらず、持続可能な未来を築くための鍵となる取り組みといえるでしょう。

記者 西谷



切り子



メダル



ビレット

### 3. メタルレビュー 鉛

#### 1. 鉛の基本特性

元素記号	Pb	融点	327.46℃	比重	11.34g/cm <sup>3</sup>
(参考)	銅	融点	1086.4℃	比重	8.96g/cm <sup>3</sup>
	アルミ	融点	660.3℃	比重	2.70g/cm <sup>3</sup>

元素記号の Pb は、ラテン語の plumbum に由来します。日本語名称の鉛は『生(なま)り』＝『やわらかい金属』からとの説があります。また、大和言葉では『青金』といいます。

#### 2. 鉛の歴史

鉛は人類の歴史の中で最も古くから利用されてきた金属の一つです。人類の歴史上、鉛は銀と同時期に登場し、紀元前 6,000 年には既に使われ始めていました。鉛の生産量は今から 3,000 年前に貨幣鑄造が始まると増加し、1,000 年前に銀の産出量が増えると、鉛の生産量は更に増加しました。銀と鉛は共に方鉛鉱から得られるので 2 つは密接に結びついており、銀鉱山の繁栄は鉛の産出を増やし、鉛鉱山の繁栄は銀の産出を増やしました。

#### 3. 鉛の主な用途

鉛は展延性に優れ、重くて切断しやすく様々な形状の加工が容易だった事から、古代ローマでは屋根を葺くのに使用されていました。また大型船には喫水線の下に鉛板が張られ、重心を低くして安定させると共に、船体表面への生物の付着を抑える役割も兼ねました。また鉛は銃火器の銃弾にも多く使用されています。戦国時代の日本では鉛の他に銅や鉄の銃弾もありましたが、鉛はその重さゆえに、銅や鉄よりも遠くまで飛ぶという事から、次第に銃弾には鉛が多く使用されるようになりました。

現在では鉛蓄電池の電極が主な用途で、総鉛消費量の約 80% を占めます。他には金属の快削性向上の為の合金成分(快削黄銅、アルミ合金 A2011 など)、免震用ダンパー、銃弾、電子材料(チタン酸鉛)などがあります。また鉛は金属の中では比較的比重が大きく高い密度を持つ為、放射線のエネルギーを効率的に吸収し熱エネルギーに変換出来ます。その為、放射線遮蔽材としても利用されています。

#### 4. 鉛の産出国

世界全体の鉛の年間生産量は約 450 万トンで、産出国のトップは中国で全体の 40% 超を占めています。2 位がオーストラリア、続いてアメリカ、ペルー、メキシコの 3 か国が均衡しており、生産上位 10 か国で 90% 近くを占めます。



---

## 5. 鉛の市場展望

鉛はデータセンターなどの建設におけるバッテリーやケーブル皮膜と配線における需要増、再生可能エネルギー向けの需要拡大などが見込まれています。また鉛は電力貯蔵や供給が比較的安価で容易であることから、インフラ設備が盛んな国での需要は特に高く、今までは中国が市場を牽引していました。ですが最近ではインドの経済成長が目覚ましく、2026年のGDP予測が日本を抜いて世界第4位になるのではといわれており、今後はインドが鉛の市場成長を牽引していくと予測されます。


## 6. 鉛の毒性

体表や消化器官に対する暴露(接触・定着)により、腹痛・嘔吐・伸筋麻痺・感覚異常症など様々な中毒症状を起こす他、血液に作用すると溶結性貧血や免疫系の抑制・腎臓への影響なども引き起こします。呼吸器からの吸引では鉛を扱う工場、鉛を含む塗料や顔料を扱う作業などに多く、職業病としての側面があります。

## 7. 鉛害問題の対策

欧州連合(EU)ではROHS指令(特定有害物質の使用制限)を施行していますが、鉛も使用制限の対象になっています。しかし鉛は金属部品を加工する際の快削性に優れており適用除外とされ、真鍮の成分として4%までの含有を認められています。鉛の適用除外の再延長は過去に何度か申請されその度に承認されており、現在では2026年12月末までの適用除外延長が認められています。ただ、いずれ鉛の適用除外が解除されることを想定し、鉛の代替品としてシリコンやビスマスが含有された材料を各真鍮メーカーが開発・販売しています。現状では鉛の代替品は切粉などのリサイクル回収の煩雑さや、鉛よりも快削性が劣るなどのデメリットがありますが、今後は世界的な環境問題を踏まえて、『鉛フリー製品』の需要は高まっていくと思われます。

記者 高橋



---

#### 4. 新入社員紹介

昨年11月に営業部に新入社員が配属になりました。昨年3月に大学を卒業したばかりです。出身は、権田金属工業創業の地である神奈川県横浜市です。営業部で20歳代の新人を迎えるのは10数年振りの事です。年末年始に定年で2名の退職者が出ますので、営業部の平均年齢もグッと下がりました。若者らしくパソコンスキルにも長け、大変素直な性格で、現在は電話応対を中心に会社・製品知識を深めている段階です。将来的には営業担当を持ち、権田金属工業の営業マンとして活躍してくれる事を期待しています。

この度権田金属へ入社致しました小薬と申します。方向音痴ですが人生の方向はポジティブ一直線です。仕事にも前向きに取り組んでいきますので何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様、宜しく願い申し上げます。

記者 日吉 小薬



## 1. 相場情報

### 1. 電気銅建値推移

2025年10月・・・1,570円スタート（10月平均1,667.6円）

2025年11月・・・1,720円スタート（11月平均1,726.1円）

2025年12月・・・1,800円スタート（12月平均1,866.1円）

2026年1月・・・2,050円スタート

### 2. LME在庫状況及び需給状況

昨年10月にリスボンでICSG（国際銅研究会）が開催され、2026年の世界の銅地金供給量について前年比+0.9%の2千8百58万トンとの見通しが公表された。2025年は前年比+3.4%の2千8百32万トンだった。供給量頭打ちの要因は、各地で発生した災害に負うところが大きい。昨年9月に銅生産量世界第2位のインドネシア、グラスベルグ鉱山で大規模な地下浸水が発生。生産再開は今年7月まで長引く見通しである。又世界第4位のコンゴ共和国カモアクラ鉱山に昨年5月に大規模な地震が発生。同鉱山の運営会社は完全再開の見込みを2027年初頭と示唆している。別要因として世界最大の銅鉱山チリのエスコンディダで昨年今年と続いて発生した労働ストライキも挙げられる。加えて中米最大規模の銅鉱山コブレパナマは、採掘報酬と税金を巡るトラブルから、操業停止となり、再開の目処は立っていない。なお1月3日に首都カラカスで米軍により自国大統領が拉致拘束されたベネズエラの銅生産量は国別で86番目であり、本件による世界の銅供給量への影響は現時点では些少と目されている。

方や2026年の世界の銅の消費量に関し、ICSGは前年比+2.1%の2千8百73万トンと予測した。昨年の消費量は2千8百14万トン、前年比+3.0%だった。

EU、日本、米国では2025年の銅の需要は+0.5%以内に留まった。今年も景気回復は緩やかであり、同様の傾向に帰するものと思われる。世界の銅の約50%以上が消費されている中国に関しては、不動産問題に端を発する内需低迷が上向く要素に乏しく、前年比+3.3%だった昨年の銅消費量が今年は+1.0%前後になるとの見方が強い。これらを加味した上でICSGは2026年の世界で消費される銅の伸び率は昨年よりも低下すると判断した。

ICSGは、前述の会議で、今年の銅の需給は、約15万トン程度の供給不足と結論づけた。他方UBS（スイスユニオン銀行）は、15万トンを上回る30万～40万トンの需給逼迫の可能性に言及している。今年に入り、住友商事グローバルリサーチは、2026年は15万トン～40万トンの供給不足との推定を発表している。自然由来エネルギーへの移行、データセンター建設、自動車のEV化など新領域での銅の使用が加速される可能性があり、今年の銅の消費量に関しては上方修正の余地を多く残している。

関税策を発端とする、アメリカへの先買い横行の帰結として、LME 並びに上海取引所の在庫から銅が補填されるに及び、市場のバッファー機能は脆弱化した。LME 在庫は今年初めには 14 万トン弱と昨年 1 月から 50% 以上減少した。新たな技術が台頭し、銅の需要が急激に高まるならば、市場の混乱は不可避であろう。

最後に各地で地政学的リスクが顕在化している世界情勢下にあつて、安全資産としての金属資源への投機が活発化している点も大いに考慮する必要がある。

### 3. 為替の見通し

昨年末の FRB（米連邦準備理事会）による 0.25p の利下げが契機となり、投資への活力や米一般の消費意欲が刺激された。現時点での米産業活動に与えるトランプ関税の影響の見極めは難しいものの FOMC（米連邦市場委員会）は、データセンター建設ラッシュに象徴される AI ブームなどが下支えとなり、2026 年の米経済は底堅い成長が期待できると明言した。ヤマト総研は昨年の実質 GDP 前年比+2.1% に対して今年は+2.4% と緩やかな回復との見込みを示している。対して、日銀が昨年末に 0.25p 利上げに踏み切ったにも拘わらず、為替レートは円安に向った。国内外の市場では日銀の利上げは織込み済みであり、かつ実質上の金利マイナス振れは衆目一致するところである。また海外との金利差は依然として小さいとはいえない。

### 4. 今後の見通し

短期予測（1M）	LME	\$ 12,300~12,900/ t	為替	152~158 円/\$
	銅建値	1,950~2,150 円/kg		
長期予測（3M）	LME	\$ 12,100~13,000/ t	為替	150~160 円/\$
	銅建値	1,920~2,180 円/kg		

記者 田中

